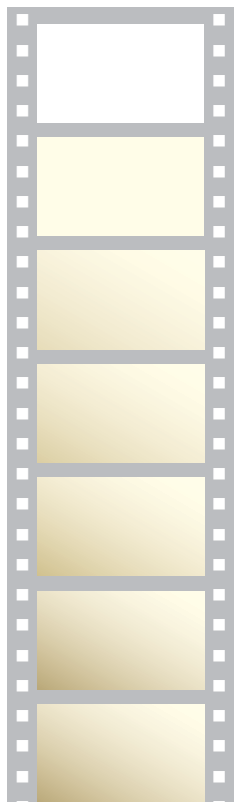
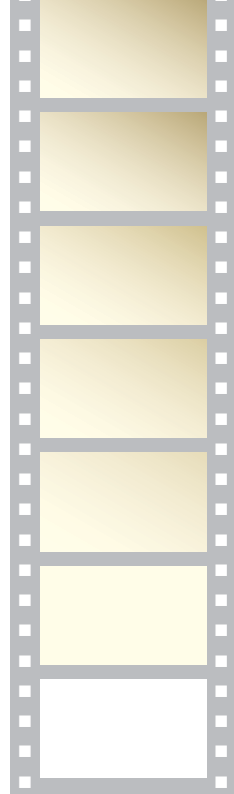


伸^ノさんのシネマトーク

鈴木 伸夫



第五十五回 「DJ仲間の友情」③

大学生時代、とてもお世話になった「Oオさん」と「ARアさん」。「Oオさん」の話は、同じ放送局に勤務していたので、これから何回も登場しますが、「ARアさん」とは、大卒卒業後、二度お会いしただけです。一度は東北各局の持ち回り会議で来青の折、もう一度は、「鈴木が転勤で東京へ出て来た。歓迎会をやろう」と東京の会社に就職したTテイ坊とともに夜、食事をした時です。現在（平成24年10月）も生放送、TBSラジオの報道情報番組「デイ・キャッチ！」のメインパーソナリティーを月曜から金曜まで担当している多忙な時に開いてくれた、歓迎会でした。

思い起こせば、「Oオさん」と「ARアさん」の就職が決まったと教えてくれたのはT坊でした。「Oオさん」はRABへ、「ARアさん」はYBCに、二人とも局のアナウンサーとして採用されたと、T坊はぼくに言いました。

「これは、お祝いをしなければ…」と考えていたところ、反対に先輩から誘いの

電話が入ったのです。

「ぼくらは就職が決まったけれど、来年受験する「団塊の世代」の君たちのほうがもつと大変だから、三人で飲もう！」と声をかけてくれたのです。

この時とばかり、二人から放送局の入社試験の傾向と対策について、面接の時に注意しなければならぬことなど、事細かく教えてもらいました。

「河岸^{カシ}を変えて、俺の知ってる寿司屋へ行こう」と「ARさん」が言ったのは、相当、酔いが回った頃でした。タクシーで移動。着いた店は大学生には不相応で立派なたたずまいの寿司店でした。「ARさん」は、「ここはぼくの出世払いの店だから好きな物を注文して食べて！」と言ったのです。

ぼくは初めて入る店で、まして自分にとってレベルが高い店という気持ちがあり、落ち着きませんでした。

すると、「ARさん」が……。ぼくは握ってもらおうか？主人^{オヤジ}さん！「ダステイ・スプリングフィールド！」関西出身の主人さんは、ポピュラー音楽に詳しいようで、当

時ヒットしていた「ダステイ・スプリングフィールド」が歌う「この胸のときめきを」を口ずさみながら、商売にはならないと思われるマグロの刺身の切れ端を握った寿司を二貫「ARさん」の目の前に出したのです。「ARさん」は黙って口の中へほうり込み食べました。続いて「ARさん」は「イカな〜い！」と「イカ」を注文したのです。すると主人さんは「イフ・ユー・ゴー・アウェイ」と英語で答えました。ぼくはこのタイトル（題名）でヒットした曲が確かあった。何という題名だったか、思い出そうとしていました。そしてやつと思いついたのです。その題名は日本語で「行かないで」。（フランスのジャック・プレルが作詞作曲。その後、アメリカの詩人で、シンガーソングライターのロッド・マッケンが英語詞をつけ、世界の歌手が歌いました。）

もちろんダステイ・スプリングフィールドも歌いました。関西出身の主人さんは「イフ・ユー・ゴー・アウェイ」と関西なまりで言ったものの、カウンターのぼくたちが理解できないのか、わからないのか「ポカーン」として身動き出来ないでい

ると、主人さんは大きな声で「イカ・ナイデ」と関西弁で言ったのです。その場は笑って終わりましたが、あとから聞いた話によると、どうもこれは「ARさん」が作った「創作小ばなし」だったらしいということです。

(続)

伸

平成24年12月